

2023年度

授業概要

科目名	失語症Ⅰ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 失語症についての基礎的な知識を習得する。言語症状の把握と有効なコミュニケーション手段を考える。訓練技法や教材作成に興味を持ち、臨床に役立てる。</p>							
<p>【実務者経験】 幸生病院・ドレミリハビリテーション・機能訓練教室にて、言語聴覚士として失語症者や運動性構音障害者の訓練に従事する。</p>							
<p>【授業全体の内容の概要】 失語症のタイプ分類・専門用語の把握・言語治療の方法について身につける。失語症者（症例1）の紹介を通して、言語症状の把握や情報収集ができる。</p>							
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症者の立場になって心理・社会的背景を把握することができる。</p>							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	失語症の定義や失語症と関係の深い脳の仕組みを理解できる。						配布資料
2	失語症の言語療法の流れや失語症者との上手な接し方について理解できる。						配布資料
3	失語症のタイプ分類や言語症状の把握について理解できる。						配布資料
4	失語症の近縁症状・随伴しやすい障害・専門用語が理解できる。						教科書 配布資料
5	ブローカ失語・ウェルニッケ・伝導失語について理解できる。						教科書 配布資料
6	健忘失語・超皮質性運動失語・超皮質性感覚失語について理解できる。						教科書 配布資料
7	混合型超皮質性失語・全失語・皮質下性失語・原発性進行性失語について理解できる。						教科書 配布資料
8	特殊な失語・純粋型について理解できる。						教科書 配布資料
9	失語症の言語聴覚療法の全体像が理解できる。						教科書 配布資料
10	失語症の評価・診断について理解できる。						教科書 配布資料
11	失語症の回復過程について理解できる。						教科書 配布資料
12	失語症の言語治療の理論と技法について理解できる。						教科書 配布資料
13	失語症の言語治療の実際について理解できる。						教科書 配布資料
14	急性期・回復期・維持期の評価や訓練、支援について理解できる。						教科書 配布資料
15	失語症研究の歴史を理解できる。						教科書 配布資料
定期筆記試験							
<p>【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版</p>							
<p>【準備学習・時間外学習】 教科書を熟読し、要点を押さえる。</p>							
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを10点、定期試験を90点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。</p>							